

令和8年度 山形美術館事業計画書

2026年4月1日

-企画展-

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
京都 大原に生きた画仙人 小松均展—自然をまなざす	大石田町に生まれた小松均(1902-1989)は、京都・大原で自給自足の生活を営みながら、自然に向かい、戦後の水墨表現に独自の画境を拓いた。写実の徹底による絵画の模索は、自然と一体化したような力強い墨線によるパノラマ風の大画面の連作—〈大原〉〈最上川〉〈富士〉へと結実し、小松の代表作となった。一方で小松は、大原の四季の自然のほか、生き物や植物などの身近なモチーフを描いている。それらの作品には、対象への眼差しや日々の生活の機微が表れているといえる。 本展では、小松に魅せられた一人の人物が長年収集したコレクションのなかから、大原、最上川や富士の風景、大原女、牛や鯉、牡丹といった動植物など、約 130 点を紹介する。白髭をたたえたその風貌と作画に取り組む姿勢から画仙人と呼ばれた小松均が、目に見える形を超え、その精神までも描き尽くそうとした世界観に触れる機会とする。	4月3日(金) — 5月24日(日)	
		一 般 1,200円 高大生 800円 小中生 500円 ※土曜と5月5日は中学生以下無料	
水木しげるの妖怪 百鬼夜行展～お化けたちはこうして生まれた～	代表作『ゲゲゲの鬼太郎』をはじめ多くの妖怪作品を生み出した水木しげる(1922—2015)は、「妖怪」という言葉が一般に広がるきっかけを作ったのみならず、その後も長きにわたり妖怪ブームの原動力となってきた。2022 年の生誕 100 周年を機に企画された本展は、これまで開催されてきた数ある水木しげる展の中でも初めて、妖怪画が作られる具体的手法に注目した展覧会である。水木が手がけた妖怪画の原画約 100 点を中心に、作家が所蔵し参考としていた書籍、関連資料ほか、妖怪文化人の系譜と著作をあわせて紹介する。 子どもから大人まで幅広い世代の人々に支持され、今もなお多くのファンを魅了し続けている水木しげるの妖怪ワールドを堪能いただく機会とする。	7月10日(金) — 8月22日(土)	
		一 般 1,600円 高大生 1,300円 小中生 700円 ※土曜は中学生以下無料	
国画会100周年記念展	1918（大正 7）年に日本画家の小野竹喬、土田麦僊らが創作の自由の場を求めて創設した「国画創作協会」を前身とする国画会は、絵画・版画・彫刻・工芸・写真の 5 部による美術団体であり、その展覧会「国展」は 2026 年に 100 回を迎える。今日の多様化した美術の状況においても発足時から掲げられた「創作の自由を尊重するをもって第一義とす」の理念を貫いている。それらは国画会で主要作家として活躍した山形ゆかりの椿貞雄、土田文雄、新海竹蔵、鈴木実、桜井祐一らから、現在山形で活躍する作家の表現にも息づいている。 国展 100 回記念五部合同企画展が全国で開催されるのを機に、本展では、国展 5 部門の作家の作品に山形ゆかりの作品を加え、国展の歴史とこれからを展望する機会とする。	12月11日(金) — 12月27日(日)	
		一 般 1,000円 高大生 600円 小中生 400円 ※土曜は中学生以下無料	

-3県展-

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
第81回 山形県総合美術展	山形県の美術振興と美術家のレベル向上を目指して毎年開催している県内最大の公募展。1946年6月に第1回展が開催されて以来、本年度で81回となる。日本画、洋画、彫刻、工芸に加えて、昨年新設したイラストレーションの5部門で作品を一般公募し、わが国を代表する作家を各部門の審査員として招いて入選作を決定し、優秀作を表彰する。これらの作品に審査員特別出品、委嘱、無鑑査などの作品をあわせ500余点を展示する。併せて第68回こども県展を開催し、園児から中学生までの児童生徒の絵を展示する。	8月29日(土) - 9月14日(月・祝)	
		一 般 800円 高大生 400円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料	
第51回 山形県総合書道展	山形県内および出身者の書家、書道愛好家から広く作品を公募し開催している本展は、1975年の第1回展開催以来、本年度で51回を迎える。県書壇で活躍する書道家たちによる合同審査によって、優秀作、入選作を選定し表彰する。また会期中には審査員らによるギャラリートークを開催する。日本を代表する芸術の一つである書に親しむ機会を創出しながら、県書道界のなご一層の振興をはかる。	9月19日(土) - 10月4日(日)	
		一 般 800円 高大生 400円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料	
第61回 山形県写真展	山形県内の写真愛好家に作品発表の場を提供するとともに、相互の交流と写真技術のレベルアップを図る公募展。1967年1月の第1回展の開催以来、本年度で61回を迎える。県内各地から広く公募された作品を、日本を代表する著名な写真家の審査により入賞、入選を選んで表彰する。	2月18日(木) - 3月22日(月・祝)	
		一 般 800円 高大生 400円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料	

-収蔵品によるテーマ展-

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
吉野石膏コレクション・服部コレクション・山形の美術—東西にまたがる美の世界	当館は、印象派を中心に19-20世紀フランス絵画の優品が揃う吉野石膏コレクション、そして現代フランス絵画の巨匠らの作品群を含む服部コレクションという、二つのフランス近代絵画コレクションを収蔵している。また1964年の開館以来、山形関連の美術として郷土出身作家らの作品を収集してきた。 本展では、吉野石膏コレクションより高山辰雄〈聖家族〉シリーズとフランス近代絵画、そして服部コレクションより20世紀フランス絵画をそれぞれテーマを設けて展示する。また、秋には「山形の美術」として本県ゆかりの作家らによる作品を紹介する。	年間通し	
		一 般 800円 高大生 400円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料 ※同時開催の企画展と統一料金	

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
長谷川コレクション —東洋日本の美術 をたのしもう	山形美術館の開館後間もない 1968 年、当時の山形銀行会長であった長谷川吉郎氏より、㊦長谷川家歴代が収集した美術品 163 点が寄贈された。以降 1994 年には㊧長谷川家より当時の殖産銀行(現・きらやか銀行)会長・長谷川吉内氏の遺志を継いだ長谷川憲治氏より 81 点、翌 95 年に再び㊦長谷川家より 48 点が追加寄贈され、全 292 点で構成される「長谷川コレクション」は、当館の日本美術の中核をなすコレクションとして親しまれている。 本展では、紅花商人であった長谷川家が守り伝えてきた作品を、季節ごとテーマを設け通年にわたり紹介する。	年間通し	
		一 般 800円 高大生 400円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料 ※同時開催の企画展と統一料金	

—収蔵品展—

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
収 蔵 品 展	常設展 「巨匠の広場」「新海竹太郎・竹蔵の彫刻」 「彫刻の小部屋」	年間通し	
		一 般 800円 高大生 400円 小中生 200円 ※収蔵品展によっては料金の変更あり ※土曜は中学生以下無料	